

2020年

# 年頭によせて

安平町長

及川 秀一郎



町民の皆さま、明けましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆さまには、平素から町政各般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

平成30年北海道胆振東部地震により多くの町民の方が被災され、大切な財産を失うとともに、今でも多くの方が心にも大きな傷を負いながら新年を迎えられていることと思えます。

現在においても仮設住宅などで不自由な生活を過ごされている方、やむを得なく転居された方、多額の修理金を投

資して再建に向けて奮闘されている方などに対しまして、まだまだ支援が必要であると考えているところがございます。

行政といたしましては、今後も町民の皆さんの目線に立ち、様々な支援策を検討し、確実な生活再建の実現に向けて取り組んでまいります。

新たに策定いたしました「安平町復興まちづくり計画」に基づき、災害に強い町づくりに、安心・安全な町づくりに向けてこれまでよりもスピード感を持って、新しい安平町に向かって町民の皆さんと一体となって進めていきたいと考えているところでございます。

昨年を振り返りますと、4月にオープンいたしました「道の駅あびらD51ステーション」につきましては、震災の影響も少なからずございましたが、なんとか大きな変更もなく、予想をはるかに上回る多くのお客様にお越しいただいております。

その道の駅に展示しております、蒸気機関車「D51-320号機」が5月に炭鉄港

日本遺産の構成文化財に登録されました。日本の近代化と戦後の高度成長を石炭の鉄道輸送で支え、その歴史と文化を継承するため長年保存されてきた関係者の皆さん、ご理解やご協力をいただいた町民の皆さんに改めて敬意と感謝を申し上げます。

ふるさと納税につきましても年々寄附収入額が増大しており、全国の皆さんから応援をいただいているところでございます。

さらには、中央競馬や海外において数々のG1レースで多くの安平町産駒が優勝するなど歓喜の輪が広がりました。しかしながら、立役者でもある「デイープリンパクト号」が突然亡くなることもございましたが、馬産地としても知名度が上がっていること、今後ますますの活躍をご期待しているところでございます。

また、日本全国について振り返りますと平成から令和の時代に変わり、全国ではお祝いムードの中、自然災害が各地で多発し、台風の上陸、地震の発生などで大きな被害が

出ております。被災された方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、同じ被災地として、手を携えていきたいと考えているところでございます。

今年には東京オリンピックが開催されるわけでございますが、競技大会に係る聖火リレーも安平町において予定されております。こういったことをきっかけに町民の皆さんが少しでも元気になっていただくことをご期待申し上げます。

終わりに災害復興や新しい町づくりに向け、まだまだ課題も山積しているところではございますが、新しい年が、皆さまにとりまして、希望に満ちた幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。